

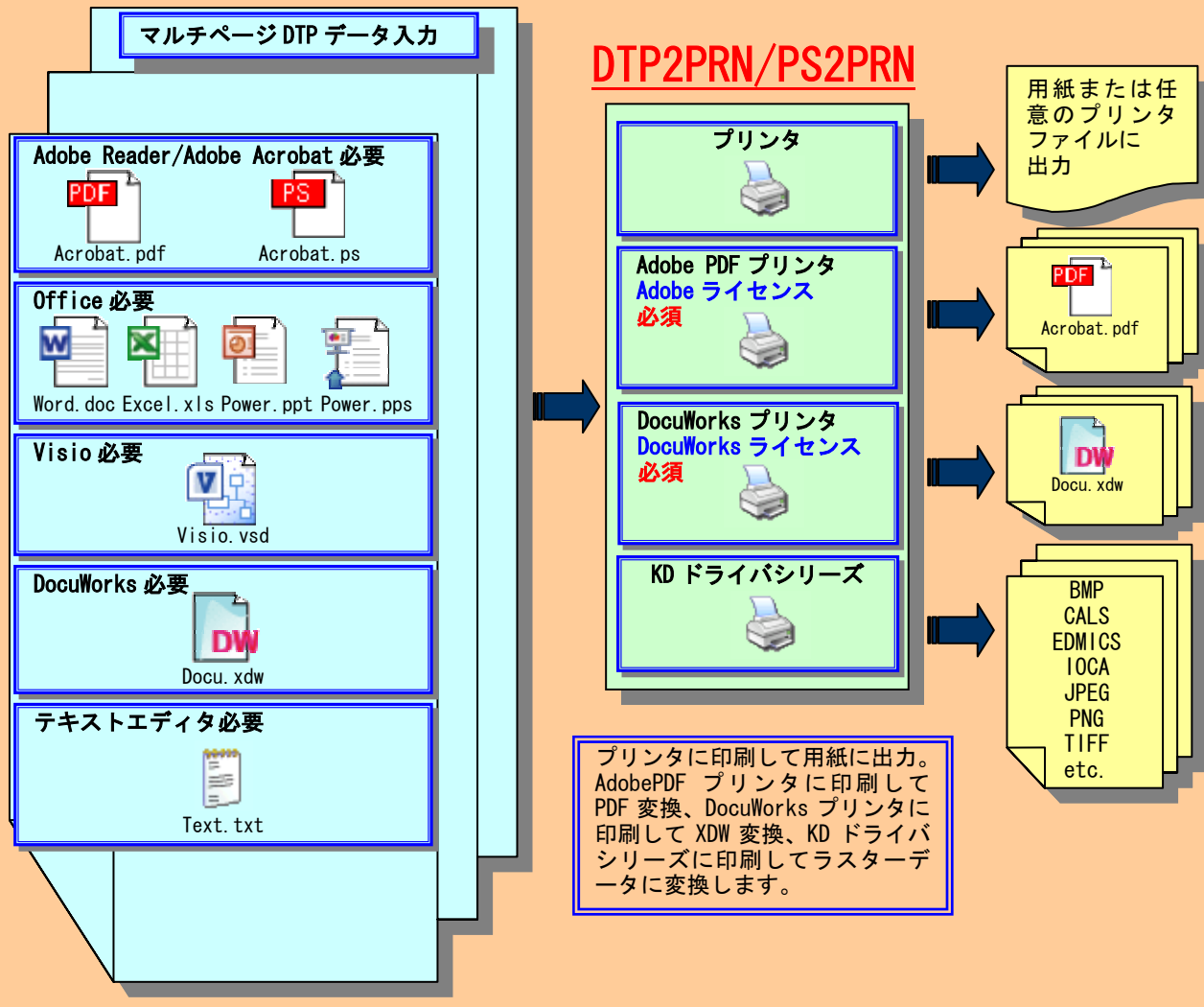
# DTP製品と一体型データ変換ソフト



Kernel Computer System  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部  
〒221-0056  
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル  
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501  
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

DTP 各種のデータをプリンタドライバに印刷します。



## ◆概要

各種 DTP データを印刷、または必要なファイルフォーマット(ラスター(イメージ)、PDF、DocuWorks)へ変換します。

### 入力対応 DTP データ

アプリケーション	対応バージョン	ファイル種類(拡張子)
Microsoft Office Word	2000/XP/2003/2007/2010	doc, rtf, dot, txt, docx, dotx
Microsoft Office Excel	2000/XP/2003/2007/2010	xls, xlw, xls, csv, xlt, xlsx, xltx
Microsoft Office PowerPoint	2000/XP/2003/2007/2010	ppt, pps, pot, pptx
Microsoft Office Visio	2000/2002/2003/2007/2010	vst, vss
Adobe Acrobat	5.0/6.0/7.0/8/9/X	pdf, ps(※1)
DocuWorks(FujiXerox)	5.0/6.0/6.2/7.0/7.2	xdw, xbd
標準ブラウザ(印刷機能が必要)		html, xml

※上記バージョン以外のファイルについては正式に対応していません。

※1. PS(PostScript)ファイルの処理に対応する製品はPS2PRNのみになります。

## ◆特長

- ・ Windows プリンタドライバを経由することによって高品質な変換結果を得ることができます。
- ・ コマンドライン形式(DOS 操作)、GUI 形式(画面操作)の双方をサポートしたアプリケーションになっています。一つの製品で両形式使用することができます。システムへの組み込みや、標準機能としてバッチファイルを利用したフォルダ単位の一括変換が可能です。
- ・ オプション製品と組み合わせることによって指定フォルダにデータを送るだけであらかじめ設定された DTP から各種サポートフォーマットへ自動的に変換を行う自動監視付き変換等が可能です。

## ◆注意事項

- ・ アプリケーションの印刷機能を利用してファイルを作成するため変換するファイルのアプリケーションが必要になります。
- ・ 出力に関するデータ処理はすべてアプリケーションに依存します。Microsoft Office でマクロ命令を利用して画面にダイアログメッセージを出力し停止するような場合やセキュリティ機能によりパスワードを求めるダイアログメッセージを出力し停止するようなデータ等は変換ソフトもその時点で停止するので注意していただく必要があります。
- ・ PDF ファイルの用紙サイズをそのままにラスター変換するには、別途 Adobe Acrobat(有償)が必要となります。Adobe Acrobat 使用ユーザは Adobe ライセンス規約に準拠する必要があります。

## ◆製品構成

製品名	概要	定価 (税抜き)
DTP2PRN	DTP ファイルをプリンタへ印刷します。また、Adobe PDF プリンタや DocuWorks プリンタ、KD ドライバを選択することで、PDF ファイル、イメージ(ラスター)データ、DocuWorks ファイル(XDW)などへ変換します。Adobe Acrobat (有償)が必要になります。	40 万円
PS2PRN	PostScript ファイルを PDF ファイルに変換後プリンタへ印刷します。また、KD ドライバを選択することで、イメージ(ラスター)データなどへ変換します。Adobe Acrobat (有償)が必要になります。	45 万円

※ Adobe Acrobat、FujiXerox DocuWorks の使用ユーザは各メーカーのライセンス規約に準拠する必要があります。

## ◆動作環境

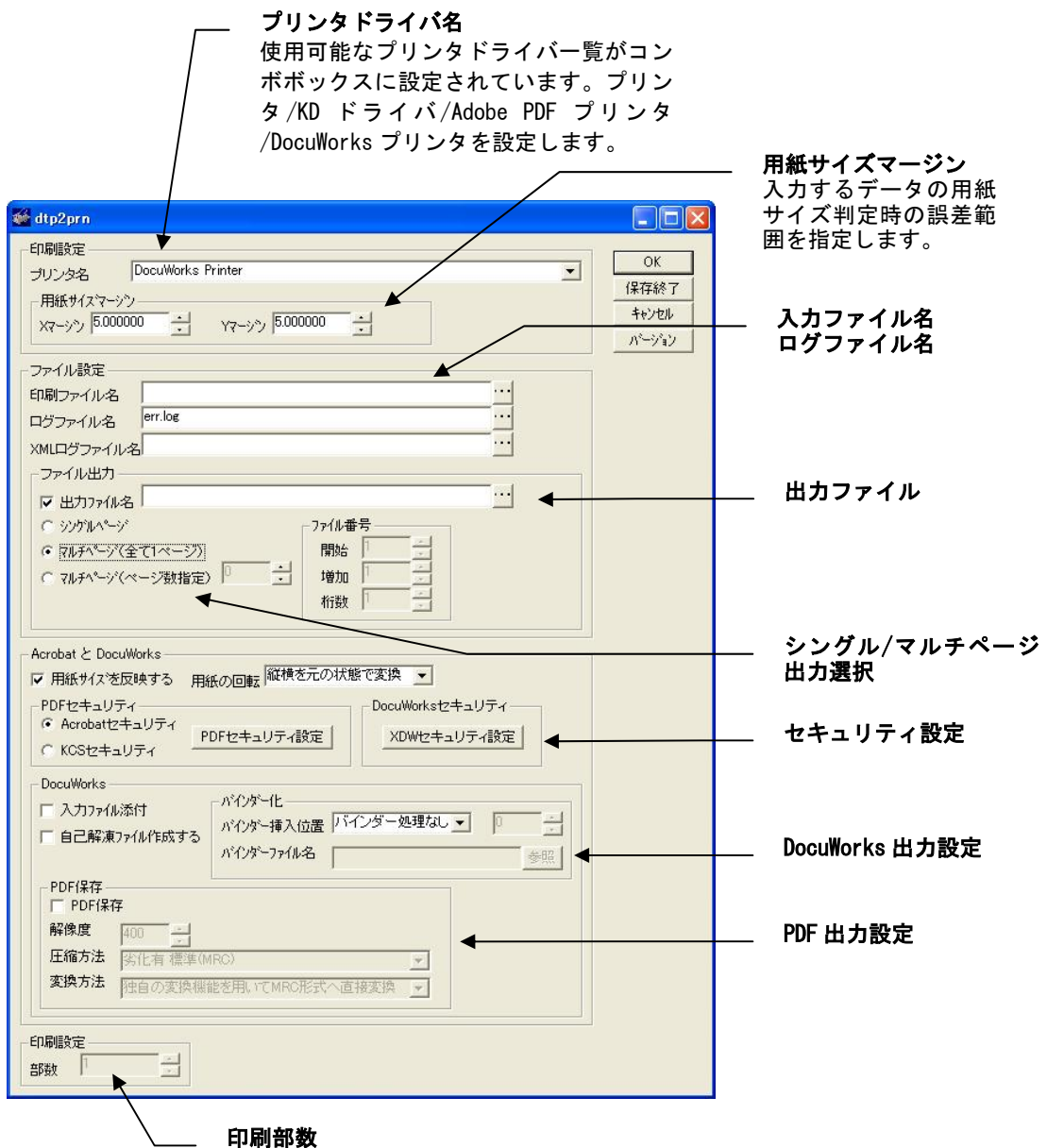
対応 OS : Windows2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7

※文書ファイルの変換を行うアプリケーション(MS-OFFICE, Acrobat 等)の動作環境に依存します。

## ◆対応表

製品名	ラスター 出力	PDF 用紙 サイズ反映	PDF 出力	DocuWorks 出力	バーコード 情報出力	PostScript 入力
DTP2PRN	○	○	○	○	×	×
PS2PRN	○	○	○	×	×	○

## GUI 操作基本画面



### ◆GUI からの操作

- ・ プログラムを起動すると上記 GUI が表示されます。変換に必要な情報を各項目に設定していきます。設定後、実行 (OK ボタンを押す) すると印刷/変換が開始されます。処理が終了すると、設定内容に従った変換結果 (ファイル) が出力されます。
- ・ 各項目の情報は保存され次回の変換にそのまま使用することができます。
- ・ 各製品により機能が異なるため、GUI の表示や使用できる項目に若干の違いがあります。

## コマンドライン基本操作

基本操作は、[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]より、変換する入力ファイル名、出力ファイル名、変換に関する各種設定情報を入力して実行し、変換を行います。

### >実行ファイル名 入力ファイル名 -各オプション

<基本形の例> 入力ファイル(pdfdata.pdf)を印刷して、印刷結果をファイル名(test.xdw)へ出力。

実行フォルダに属性ファイル(dpr\_in.atr)が存在することを確認し、以下のように入力します。

```
C:¥>DTP2PRN pdfdata.pdf -0test.xdw -Udpr_in.atr -LOGerror.log
C:¥>
```

(各パラメータについて)

DTP2PRN	: 実行ファイル名。
pdfdata.pdf	: 入力ファイル名(印刷を行うファイル名を指定)。
-0	: 印刷結果を出力するファイル名を指定するオプションパラメータ。
test.xdw	: 印刷結果を出力するファイル名。
-U	: 属性ファイル名(初期設定:dpr_in.atr)を指定するオプションパラメータ。
dpr_in.atr	: 属性ファイル名。
-LOG	: ログファイル名(初期設定:err.log)を指定するオプションパラメータ。
error.log	: ログファイル名。

※インストールパスが“c:¥Program Files¥dtp2prn”の場合、<基本形の例>を実行されると、それぞれ指定されたファイルは、プログラム内部で以下のフルパスに置き換えられて変換を実行します。

入力ファイル名	: pdfdata.pdf	→	“c:¥Program Files¥dtp2prn¥pdfdata.pdf”
出力ファイル名	: test.xdw	→	“c:¥Program Files¥dtp2prn¥test.xdw”
属性ファイル名	: dpr_in.atr	→	“c:¥Program Files¥dtp2prn¥dpr_in.atr”
ログファイル名	: error.log	→	“c:¥Program Files¥dtp2prn¥error.log”

### 【DTP2PRN/PS2PRN のコマンドラインからの操作における標準仕様】

- ・変換に関する各種設定(出力フォーマット、シングル/マルチ化、解像度、等)は属性ファイルで行います。属性ファイルとはテキスト形式のファイルです。そのテキスト形式のファイルに変換に関する各種設定情報を弊社で決められた項目に従って記述します。属性ファイル(テキスト形式のファイル)の編集の代わりに GUI(画面)から設定を行うこともできます。
- ・使用するプログラムについてはカレントフォルダ(現在作業中のフォルダ)に対して相対/絶対パスで指定することができます。プログラムをインストールしたフォルダで作業する場合、パス名を省略できます。変換元ファイル(入力ファイル)、出力ファイル、属性ファイル、ログファイルについても同様の扱いとなります。
- ・相対/絶対パスを指定する場合においてパス名に空白(スペース)がある場合には、“” (ダブルコーテーション)を使用してください。
- ・「-0」は出力ファイル名を指定するオプションパラメータです。マイナス記号とアルファベットの「オー」です。大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。また、「-0」と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。その他のオプションパラメータについても同様に扱います。
- ・変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じ名前を指定することはできません。
- ・エラー情報や変換状況をカレントフォルダにログファイル名(err.log)で自動的に出力します。

## 操 作 例

例 1 : pdfdata.pdf を印刷。

```
C:¥>DTP2PRN pdfdata.pdf
C:¥>
```

※pdfdata.pdf を印刷し、エラーや変換状況が実行したフォルダにログファイル名 (err. log) で作成。

例 2 : 任意の属性ファイルを作成し、入力ファイル (pdfdata.pdf) を印刷後に、任意のログファイルにエラー情報や変換状況を出力。

```
C:¥>DTP2PRN pdfdata.pdf -Udpr_in_test.atr -LOG"c:¥log¥abcd.log"
C:¥>
```

(各パラメータについて)

dpr\_in\_test.atr : 任意の属性ファイル名。

"c:¥log¥abcd.log" : ログファイル名 (絶対パスを指定)。

※任意の属性ファイルは、初期設定の属性ファイル (dpr\_in.atr) をコピーしてファイル名を変更したファイルや属性ファイルに使用されているパラメータを含む内容のファイルです。

例 3 : アプリケーションのバージョン情報を出力。

```
C:¥>DTP2PRN -QV -LOGver.log
C:¥>
```

(各パラメータについて)

-QV : 実行ファイル名とバージョン情報を表示するオプションパラメータ。

ver.log : ログファイル名。

※「-QV」と「-LOG」を同時に指定した場合は、指定したログファイルにアプリケーションのバージョン情報を書き出します。

例 4 : PDF ファイルの情報をファイル出力。

```
C:¥>DTP2PRN data.pdf -QS
C:¥>
```

(各パラメータについて)

-QS : PDF 情報出力ファイル名 (初期設定:pdf\_inf.txt) を指定するオプションパラメータ。

※PDF 情報出力ファイルは、PDF ファイルに関する情報を書き出して出力するファイルです。

※カレントフォルダに、PDF 情報出力ファイルが作成されます。

例 5 : PDF ファイルの情報を任意のファイルへ出力。

```
C:¥>DTP2PRN data.pdf -QSjouhou.txt
C:¥>
```

(各パラメータについて)

jouhou.txt : 任意の PDF 情報出力ファイル名。

※PDF 情報出力ファイル名の指定が省略された場合は、初期設定のファイル名 (pdf\_inf.txt) に情報を書き出します。

例 6 : バッチファイルからの印刷(フォルダ単位の拡張子による一括変換)。

バッチファイルで記述された内容の処理を実行します。

複数のファイルやフォルダ内のすべてのファイルを一括で変換して印刷する場合に使用します。

任意の名称(sample.txt)で以下のようにバッチファイル(テキスト形式)を作成します。

・バッチファイルの内容

```
c:¥data¥dtp¥sample1.xls -PRINTER"Canon LASER SHOT LBP-750"  
c:¥data¥dtp¥sample2.pdf -PRINTER"Canon LASER SHOT LBP-750" -BASE  
c:¥data¥dtp¥sample3.xdw -PRINTER"Canon LASER SHOT LBP-750" -BASE
```

(各パラメータについて)

-PRINTER : 印刷先のプリンタ名を指定するオプションパラメータ。  
-BASE : 用紙サイズを反映するオプションパラメータ。

・コマンドライン入力と画面表示

```
C:¥>DTP2PRN -BATChsample.txt  
C:¥>
```

(各パラメータについて)

-BATCH : フォルダ単位の一括変換を行うために使用するオプションパラメータ。  
sample.txt : バッチファイル名。

※「-BATCH」で指定された任意のバッチファイル名(sample.txt)の内容に従い処理を行います。

以下の順番で処理を行います。

- ①c:¥data¥dtp¥sample1.xls を Canon LASER SHOT LBP-750 プリンタに印刷します。
- ②c:¥data¥dtp¥sample2.pdf の用紙サイズを反映して Canon LASER SHOT LBP-750 プリンタに印刷します。
- ③c:¥data¥dtp¥sample3.xdw の用紙サイズを反映して Canon LASER SHOT LBP-750 プリンタに印刷します。

例 7 : バッチファイルを使用して、プリンタドライバを設定した場合の印刷。

例 6 と同様に、バッチファイルで記述された内容の処理を実行します。

任意の名称(sample.txt)で以下のようにバッチファイル(テキスト形式)を作成します。

・バッチファイルの内容

```
c:¥data¥dtp¥sample1.xls  
c:¥data¥dtp¥sample2.pdf -PRINTER"EPSON LP8200C" -BASE  
c:¥data¥dtp¥sample3.xdw
```

・コマンドライン入力と画面表示

```
C:¥>DTP2PRN -BATChsample.txt -PRINTER"Canon LASER SHOT LBP-750"  
C:¥>
```

以下の順番で処理を行います。

- ①c:¥data¥dtp¥sample1.xls を Canon LASER SHOT LBP-750 プリンタに印刷します。
  - ②c:¥data¥dtp¥sample2.pdf の用紙サイズを反映して EPSON LP8200C プリンタに印刷します。
  - ③c:¥data¥dtp¥sample3.xdw の用紙サイズを反映して Canon LASER SHOT LBP-750 プリンタに印刷します。
- ※③では「-BASE」パラメータを使用していませんが、②で使用していることにより、属性ファイルが「用紙サイズを反映する」に書き換えられますので、③でも用紙サイズが反映されます。

**注意事項 :**

**コマンドラインとバッチファイルの両方にパラメータを記述した場合はバッチファイルが優先されます。**

## 変換機能

主だった変換機能として以下の設定を行うことができます。これらの変換機能は GUI (画面) または 属性ファイル (テキスト形式)、オプションパラメータから指定します。各製品により機能が異なるため使用できる項目に一部違いがあります。

- ・ プリンタへの印刷
- ・ Adobe PDF プリンタを利用した PDF ファイルへの変換
- ・ DocuWorks プリンタを利用した XDW ファイルへの変換
- ・ KD ドライバを利用したラスタファイルへの変換
- ・ シングルページ/マルチページ出力指定
- ・ PDF 入力処理時、用紙サイズの自動認識指定  
自動認識をする場合、入力データの用紙サイズを自動的に判別して出力データへ反映します。  
自動認識をしない場合、設定されている用紙サイズで出力します。
- ・ PDF 出力処理時、セキュリティの設定機能
- ・ ログファイルの出力
- ・ ページ分割の指定
- ・ バッチ処理 (フォルダ単位の拡張子による一括変換)
- ・ ラスタフォーマット指定

## 制限事項

### 印刷の共通制限事項

- ・ 本アプリケーションはログインされた状態で使用してください。ログオフ状態では動作しません。
- ・ インストールマシン以外のネットワーク上のマシンから、リモート呼び出しによる変換はできません。
- ・ Windows の OS を長時間 (数ヶ月単位) 再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用されるすべてのソフト・ドライバの複合要因であり、このような現象が発生した場合、原因の特定および回避はすべてのアプリケーションが関係するため、対応が不可能です。長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生することがありますので、定期的に Windows の再起動を奨励致します。
- ・ プリンタ情報の切り替えを行い、変換 (印刷) を行っているため、本アプリケーションを複数同時に実行することはできません。
- ・ 本アプリケーション動作中に LOG ファイル等の関連ファイルへのアクセス (参照、コピー等) は行わないでください。

### DTP2PRN の制限事項

- ・ アプリケーションのインストールにおいて、DocuWorks をインストール済みか否か確認のダイアログが表示されますので、Yes or No を正しく入力してください。正しく入力されなかった場合、正常に動作しないことがあります。
- ・ DTP2PRN が異常終了した場合には、属性ファイル (dpr\_in.atr) の内容が変わっている可能性がありますので再度実行する場合はファイルの内容を確認してください。また、アプリケーションがタスク上に残っている場合はタスクマネージャ等で終了させてください。また、PARA.TXT が残っている場合は削除してください。
- ・ 用紙サイズを反映するとして印刷中に異常終了や強制終了した場合、インストールフォルダに 0.pdf, 1.pdf や 0.xdw, 1.xdw が残っていることがあります、このファイルはマルチページを分割したファイルであり作業用ファイルですので削除してください。
- ・ PDF または XDW のデータを元の用紙サイズを反映して印刷すると選択されているプリンタの用紙を自動的に切り替えながら印刷を行います。元のサイズを反映しない、または、PDF, XDW 以外を印刷する際は選択されているプリンタにそのまま印刷しますので用紙サイズ設定にご注意ください。
- ・ 用紙サイズを反映するとして印刷した場合、1 ページごとに分割して印刷処理を行いますのでページ数分の印刷ジョブが実行されます。用紙サイズを反映しないとして印刷した場合、分割しないので一つの印刷ジョブが実行されます。
- ・ Office 等でマクロが使用されている場合、印刷中や終了処理の際に止まる場合があります。ダイアログを手動で対処するかマクロを削除して再起動してください。
- ・ 印刷プリンタとして弊社製品 KDdriver for Windows を使用の際、マルチページ出力はできません。また、

ファイル名はユニークな名称が付けられます。

例) ABC.TIF(2 ページの TIF ファイル)を KDdriver for Windows に出力した場合。

0.tif, 1.tif が KDdriver で指定している出力フォルダに出力されます。

- ・ サービス上で起動するとプリンタの権限が与えられていないため、本アプリケーションは用紙サイズの切り替えを行うことができませんので、設定されている規定値の用紙サイズでのみ出力可能です。
- ・ PDF ファイルのセキュリティ設定を解除するにはパスワードが必要です。
- ・ プリンタドライバを経由してファイル保存する場合は拡張子を正しく入力してください。PDF, XDW出力は拡張子を元に処理を行っています。プリンタに『Adobe PDF』を指定し、出力ファイル名に『test.pdd』と指定しても正常に動作しません。また、PDF 出力の場合『Acrobat Distiller』/『Adobe PDF』、XDW 出力の場合『DocuWorks Printer』をプリンタに指定してください。
- ・ ファイル出力する場合の印刷部数は1固定とします。
- ・ EXCEL ファイルを PDF, XDW 以外のプリンタファイル出力する場合は EXCEL を保存したとき選択されているシートのみが変換対象となります。
- ・ 入力ファイルの添付機能は、シングルページまたはマルチページ(ページ指定)出力の場合は最初のページのみファイルを添付します。
- ・ プリンタの用紙切れや紙詰まり等で印刷ジョブが終了できない場合には DTP2PRN が終了しない場合があります。
- ・ 連続で異なるプリンタに印刷する場合に、通常使うプリンタを切り替えていても、切り替え前のプリンタに印刷される場合があります。処理が止まってしまう場合があります。止まってしまった場合には、タスクマネージャより、終了してください。異なるプリンタに印刷を行う場合には、印刷物が完全に出力されてから次の印刷を実行してください。
- ・ DocuWorks ファイルを KD FAX ドライバで変換すると、縦横の解像度を正しく変換することができません。
- ・ 本アプリケーションはリターン値を返しません。
- ・ PDF ファイルから PDF ファイルへの変換は行えません。
- ・ 印刷はエクスプローラ上で、ファイル選択後右ボタンの印刷と同様の動作をします。この動作で印刷実行できないファイルは、DTP2PRN でも印刷できない可能性があります。
- ・ 印刷時にスプール終了待機時間が WAIT を超えた場合、スプールの終了を待たず、DTP2PRN を正常終了として終了します。上記該当ケースは以下のようなものが考えられます。
  1. 印刷データが大きく、正常に印刷中であっても、WAIT を超えてしまう場合。
  2. プリンタの電源が入っていない、用紙が無い、その他プリンタ側の問題で出力されない場合。
  3. プリンタドライバでオフラインその他、正常にスプールされない状態となっている場合。
- ・ 変換を行うマシンとは別のマシンで作成した、用紙サイズが A3 以上の Visio ファイルを変換すると分割されて出力される場合があります。

## PS2PRN の制限事項

- ・ ファイル名フォルダ名は絶対パスで指定してください、相対パスには対応していません。
- ・ 属性ファイルで指定されている項目をパラメータ指定した場合、パラメータ指定が優先されます。
- ・ 用紙の規定値はプリンタによって、また インストールした PC によって異なりますのでご注意ください。他のプリンタの規定値を指定し元の用紙サイズを反映するとしても正常な印刷結果は得られません。
- ・ Acrobat Distiller のセキュリティ設定を掛けていますと、変換後の PDF ファイルにセキュリティが設定され、Acrobat プラグインを利用した用紙サイズを反映やページの回転ができませんのでセキュリティ無しでご利用ください。
- ・ コマンドラインからの実行時に属性ファイルを指定しなかった場合には、カレントディレクトリ(実行フォルダ)に存在する psprn. atr を自動的に読み込みます。psprn. atr が存在しない場合はデフォルト値が与えられます。
- ・ コマンドラインからの実行時に属性ファイル内で定義されている項目をパラメータ入力した場合、パラメータ入力値が優先されます。